



現役消防団員の 本音に迫る！

地域防災の中核として、市民の安全と安心を守る消防団では、世代や職種をこえてさまざまな人が活動しています。ここでは、現役消防団員3人にインタビュー。きっかけや達成感、やりがいなど、本音を聞きました。



市消防団 女性分団
河野団員(37歳)
アパレル会社勤務



市消防団 野津原中部分団
中村副分団長(40歳)
畜産業



市消防団 東植田分団
田中団員(22歳)
大分大学学生



「自分の活動を見て、友人が消防団に入団してくれました」と爽やかな笑顔で語る田中さん。

理由は 人それぞれ でも 思いは同じ



「防災の知識が、大切な人の命を守ってくれます」と河野さん。



中村畜産3代目の中村さん。「若い世代が中心となって消防団にもっと活気を！」

「命を守るために」 地域、家族、自分の

東植田分団 田中団員

現役の大学生にして、東植田分団駕野部所属の消防団員として活動している田中さんは、消防団員の父親の影響もあって子どもの頃から防災の分野に興味をもっていたそうです。

災害現場への初出勤は令和2年7月豪雨でした。その当時を田中さんは「何もなければ、一人の大学生としての自分があるだけ。実際に災害現場で活動することで、自分はそのために役立っているんだと実感できました」と振り返ります。また、消防団員として駕野地区の防災部会でも活動し、防災訓練の企画や進行など運営面に携わることもやりがいを感じています。

学生が消防団として1年以上活動したことを市長が認定する「学生消防団活動認定制度」の認定第1号となった田中さん。世代や職種が異なる団員の先輩方とともに活動することで成長し、次世代のオピニオンリーダーとしても期待されています。

野津原中部分団 中村副分団長

家業の中村畜産を継いだ24歳の年は、ちょうど市町合併の年であり、消防団に入



団した年。高校生から小学生まで2男2女のお子さんを育てる中村さんは現在、野津原中部分団の副分団長です。

「地域を一番理解しているのは消防団であるべきです。どの家に誰が住んでいるかなど、地域の情報を団員間で共有することが、適切で迅速な災害対応につながり、被災者と団員の命を守ることに繋がっています」。

中村さんは、地区の「かた昼消防団」でも中心的な役割を担い、「人を助ける」と「自分の命を守る」ことの大切さを子どもたちに教え続けています。近年の団員数減少と平均年齢の上昇、加えて年々甚大化する災害により、消防団員の必要性が増していることから、若い人材の確保を切に訴えています。

「消防団での経験は、人助けだけでなく、自分の身を守るためにも役立ちます。地域

を守り、地域を元気にできる消防団で一緒に活動しませんか？」。

女性分団 河野団員

商業施設で正社員として働きながら、2人のお子さんの子育てにも奮闘中の河野さんは消防団本部付け「女性分団」に所属しています。平成23年に発生した東日本大震災を機に、「家族の身を守るために何か自分にできることはないか」と考えて防災士の資格を取得しました。防災の啓発活動をはじめ、市立の幼稚園を対象とした「わくわく消防教室」の実施など、女性分団の一員として積極的に活動しています。

同じ意識をもった女性団員との出会いや交流で刺激をもらい、スキルアップのモチベーションにもなっていると語る河野さん。「いざというときにAED(自動体外式除細動器)を使えたり、子どもが怪我をしたときに慌てずに応急手当ができたり、その知識を吸収できる場でもあると知ってもらえれば、消防団として活動することは決して難しいことではないと理解していただけたと思います」。

全国的に女性団員は増加傾向ですが、大分市は増えていないのが現状。昨今の避難所で女性リーダーが求められるなど「女性が女性を守る」重要性を考えなければならぬ時代だからこそ、ぜひ「女性分団」という活躍の場があることを知ってください。